

平成29年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 各地区会場

「下北地区研修」

平成29年5月26日(金) 会場名:むつ合同庁舎 大会議室 受講者数 30名

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 各地区会場「下北地区研修」が、5月26日(金)むつ合同庁舎において実施されました。

この地区研修は、県内6地区の地域課題の把握に努め、各地区のネットワーク形成及び課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人財育成を目的とした研修を実施することを趣旨としています。

下北地区では、「地域コミュニティと地域の教育力向上」をメインテーマとし、「生涯学習を通じた地域づくり」の講義と実践活動の事例発表の後、ワークショップの進め方を学びながら、実際に地域活性化の計画づくりの演習を行いました。

講師には、午前の講義を岩手大学 名誉教授 新妻 二男 氏をお招きして御講義いただき、午後の実践活動の発表と演習はむつ市まちづくりコーディネーター 桜田 真佐 氏 にお願しました。

1. 講義①:「生涯学習を通じた地域づくり」

講師:岩手大学 名誉教授 新妻 二男 氏

「地域の教育力とは何か?」という視点から、子どもたちは「家庭や地域や学校」という3つの中で育っているが、子どもの側から言わせると「選んでここに生まれたわけではない」という理屈もあり、その「家庭や地域や学校」が、子どもたちの健やかな成長にふさわしい場になっているかを考えてみる必要があるとしています。歴史を紐解くと学校制度ができてからわずか150年程であり、家庭で子どもを育てていたというよりも、地域の存在の方が大きかったことと、現代の子育ての状況は真逆になっていることを考えると、「地域の教育力」が重要視されていることを理解して欲しいとお話しになりました。

その上で『居場所』の大切さに触れ、子どもたちだけでなく、大人も地域の人たちも高齢者の方々も、全ての人たちにとって“安心できる場所”を保障する『地域づくり』が大事であるとしています。

「生きがい」や「長寿の理由」にも、地域における『居場所』が大きく関係していて、研究データの裏付けもあることを話されました。

『地域づくり』は、人間関係をつくり、安心して暮らせる場をつくることで、公民館がその拠点になったり、社会教育がその手助けになったりすることであり、関係職員の役割の重要性を改めてお話しされました。

《講義の様子》



2. 講義②：「地域活性化に取り組む実践活動」 講師：むつ市まちづくりコーディネーター 桜田 真佐 氏

地元のむつ市大畑町で「イカす大畑カダル団」というまちづくり団体の団員としても活動中で、これまでの様々な実践を“生の声”としてお話くださいました。

その活動の理念には『協働』があり、その連携の仕組みについても詳しく御説明いただきました。「行政」・「志縁 団体」・「地縁 団体」とカダル団が連携・協働し、『薬研温泉開湯400年祭』を実現させた事例や『ミナカダ祭』、『チョス！ティバル』、『グランピング』などのイベント、さらにはコミュニティ・カフェ『カダール』のオープン等々、様々な団体と有機的なつながりを持つことで相互に活動の幅を広げてきた様子を実践発表してくださいました。

「年齢、加入時期など関係なし」・「みんな対等、みんなプレーヤー」・「それぞれの得意分野を生かす」・「ゆるやかなつながり・ネットワーク」・「自分たちが楽しいと思えることをする」というコンセプトで、「ターゲットを明確にすること」や「ネットワークを大切にすること」により、今後も“人おこし・地域づくり・場づくり”へと展開していくというお話をいただきました。

その後、ワークショップの進め方を学ぶ演習を、手順にそって丁寧に御指導くださいました。

《講義の様子》



《演習の様子》



3. 受講者の感想

- ・新妻名誉教授の講義では、「地域の力」の重要性を学ぶことができた。ワークショップ自体あまり得意ではなかったが、今回の講座を通して、ワークショップの楽しさや企画のおもしろさを実感できたので、今後はいろいろな分野にアンテナを張り、頭を柔軟にしてワークショップ等に参加していきたい。
- ・何かを企画しようと思うときに活用できるワークショップを体験させていただきました。来月、さっそく似たような会がありますので、生かしてみます。イカす大畑カダル団の活動は知っていましたが、想像以上に大きく充実されているのには感心しました。
- ・原点回帰させていただいた感じです。大事なことはそんなに多くないのに、そこばかり忘れていたり見落とししたりで足踏みしていたので…。演習では、短時間でエッセンスを詰め込んで教えて下さったのが良かったです。